

病害虫発生予察情報

- 1 令和6年度 病害虫発生予察 予報第11号（2月）
- 2 気象情報 九州北部地方1か月予報（福岡管区気象台）
気象台メモ（大分地方気象台）

向こう1か月間における農作物の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

◎予報内容の概況

作物	病害虫名	発生面積		発生量		掲載ページ
		平年比	前年比	平年比	前年比	
白ネギ	べと病	やや少ない	前年並	やや少ない	前年並	P.2
	さび病	やや少ない	前年並	やや少ない	前年並	P.2
イチゴ	灰色かび病	やや少ない	やや少ない	やや少ない	やや少ない	P.3
	うどんこ病	やや少ない	少ない	やや少ない	少ない	P.4
	ハダニ類	平年並	多い	平年並	多い	P.5

◎注意事項 上記一覧表病害虫のゴシック体のみ以下に個別の記述をしています。

白ネギ（平坦地）

1 ベと病

(1) 予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 1月中旬の巡回調査では発生は認められず、発生圃場率、平均発病株率ともに平年より低かった。

発生圃場率： 0 %（平年： 2.5%、前年： 0%）

平均発病株率： 0 %（平年： 0.1%、前年： 0%）

イ 本病は気温 13～20℃、多雨条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、低い確率 40%、平年並 30%、降水量は、平年並 30%、多い確率 40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病後の防除は効果が劣るため、気象情報を参考に発病前から防除を行う。

イ この時期の散布は、曇雨天日や朝夕を避け、できるだけ晴天日の日中に行う。

ウ 同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。

2 さび病

(1) 予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 1月中旬の巡回調査では発生は認められず、発生圃場率、平均発病度もとに平年より低かった。

発生圃場率： 0%（平年： 13.2%、前年： 0%）

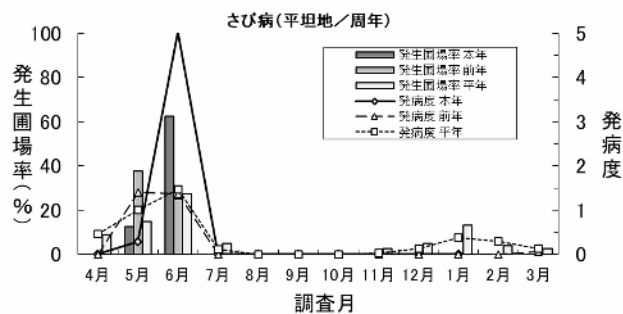
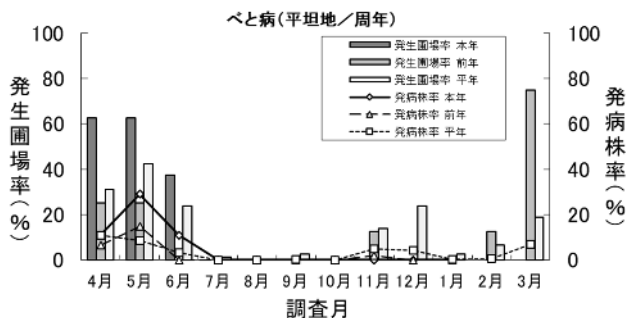
平均発病度： 0（平年： 0.4、前年： 0）

イ 本病は気温 10～20℃で湿度が高い場合に発病しやすいが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、低い確率 40%、平年並 30%、降水量は、平年並 30%、多い確率 40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 多発すると防除が困難になるので、薬剤防除は予防散布や初期散布に重点を置く。

イ 既に発生している圃場では治療効果の高い薬剤を散布する。



イチゴ

1 灰色かび病

(1) 予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 1月中旬の巡回調査では、発生は認められず、発生圃場率、平均発病株率、平均発病葉率、平均発病果率ともに平年より低かった。

発生圃場率： 0%（平年：19.1%、前年：10.0%）

平均発病株率： 0%（平年： 2.0%、前年： 3.6%）

平均発病葉率： 0%（平年： 0.5%、前年： 1.4%）

平均発病果率： 0%（平年： 0.1%、前年： 0%）

※発生圃場率は平均発生葉率（平均発病果率は考慮していない）より算出。

イ 本病は多湿条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、降水量は、平年並30%、多い確率40%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

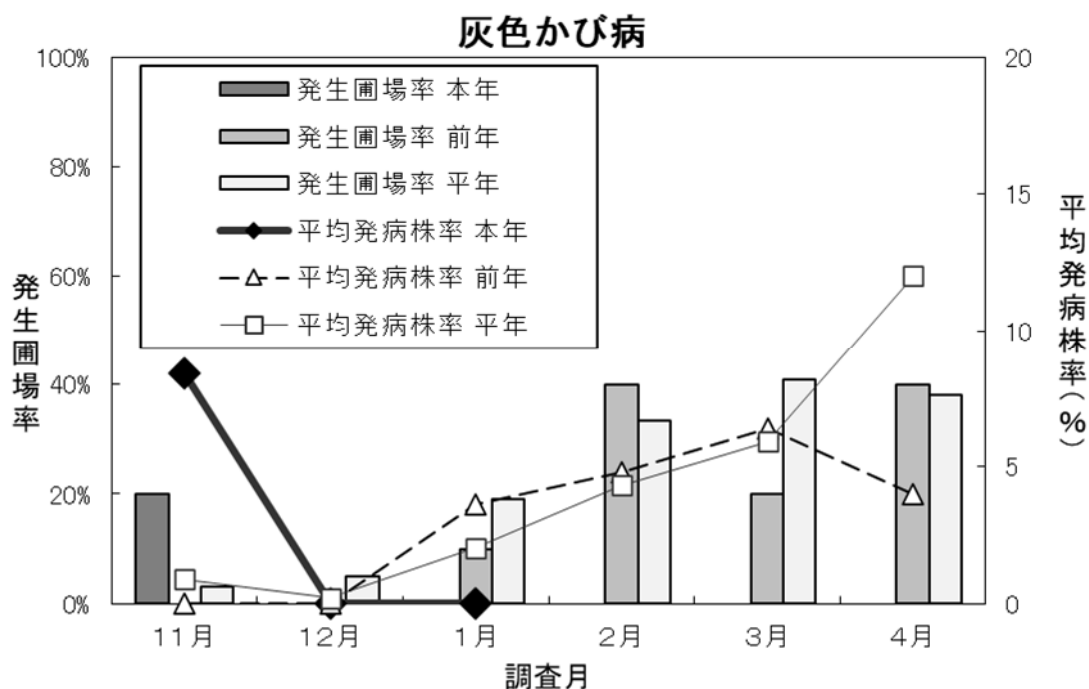
ア 今後、発生が増加する時期になるため、換気等を行い、ハウス内の過湿防止に努める。

イ ハウス内の菌密度が高いほど発病しやすくなるので、発病果や発病葉は、見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に埋める等の処分を行って孢子の飛散を抑える。

ウ 曇雨天時の防除については水和剤等の使用を控え、くん煙剤等を使用すると過湿防止に有効であるとともに省力的である。

エ 各種薬剤に対する耐性菌の発生が認められているため、同一系統薬剤を連続使用しないようにし、他系統薬剤とのローテーション（輪番）使用を行う。

オ 感受性検定の結果、アゾキシストロビン剤およびピラクロストロビン剤(FRAC:11)、メパニピリム剤（FRAC:9）は耐性菌率が高いため、少発生時の防除、予防目的での使用にとどめる。



2 うどんこ病

(1) 予報内容

発生面積：やや少ない

発生量：やや少ない

(2) 予報根拠

ア 1月中旬の巡回調査では、発生は認められず、発生圃場率、平均発病株率、平均発病葉率、平均発病果率ともに平年より低かった。

発生圃場率：0%（平年：8.1%、前年：20.0%）

平均発病株率：0%（平年：1.5%、前年：6.8%）

平均発病葉率：0%（平年：0.4%、前年：1.7%）

平均発病果率：0%（平年：0.1%、前年：0.3%）

※発生圃場率は発生葉率より算出。

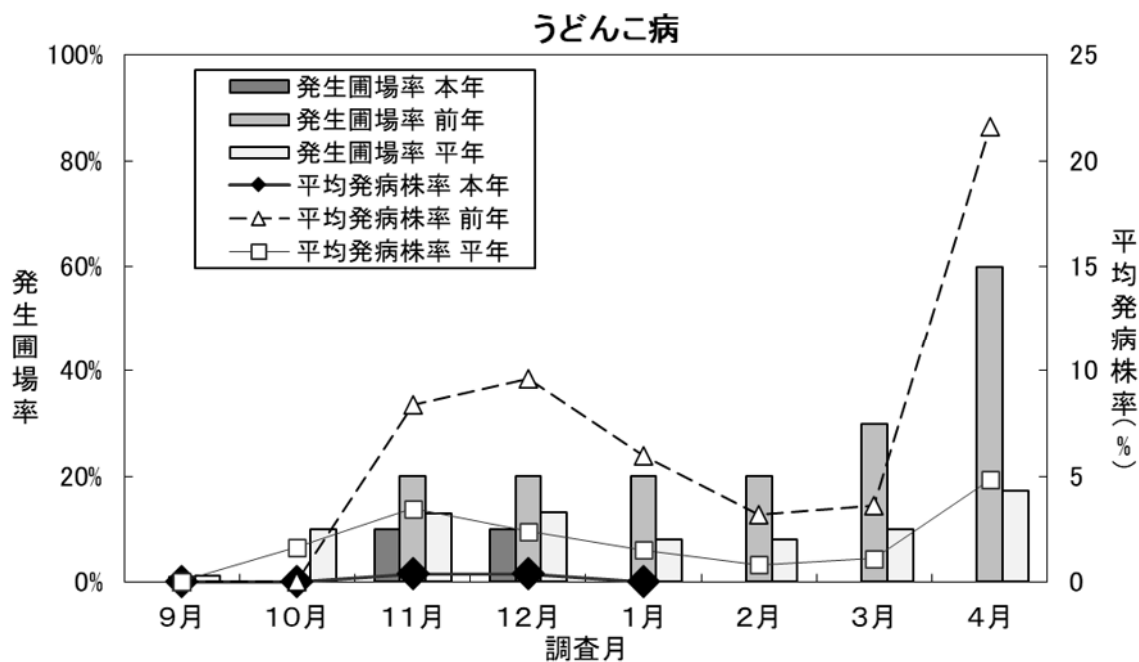
イ 本病は気温20℃程度が最も発生しやすいが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率30%と予想されている（気象情報参照）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 初め葉裏に発生しやすいので注意し、早期発見に努める。

イ 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布する。

ウ EBI剤(FRAC: 3)やストロビルリン系(FRAC: 11)薬剤は連用すると耐性菌を生じやすいので、系統の異なる薬剤とのローテーション（輪番）使用を心がける。



3 ハダニ類

(1) 予報内容

発生面積：平年並

発生量：平年並

(2) 予報根拠

ア 1月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低く、平均寄生株率は平年よりやや低かった。

発生圃場率：20.0%（平年：43.4%、前年：0%）

平均寄生株率：10.0%（平年：13.8%、前年：0%）

イ 本虫は高温乾燥条件で発生が助長されるが、向こう1か月の気象予報によれば、平均気温は、平年並30%、高い確率30%、降水量は、少ない確率30%、平年並30%と予想されている（気象情報参照）。

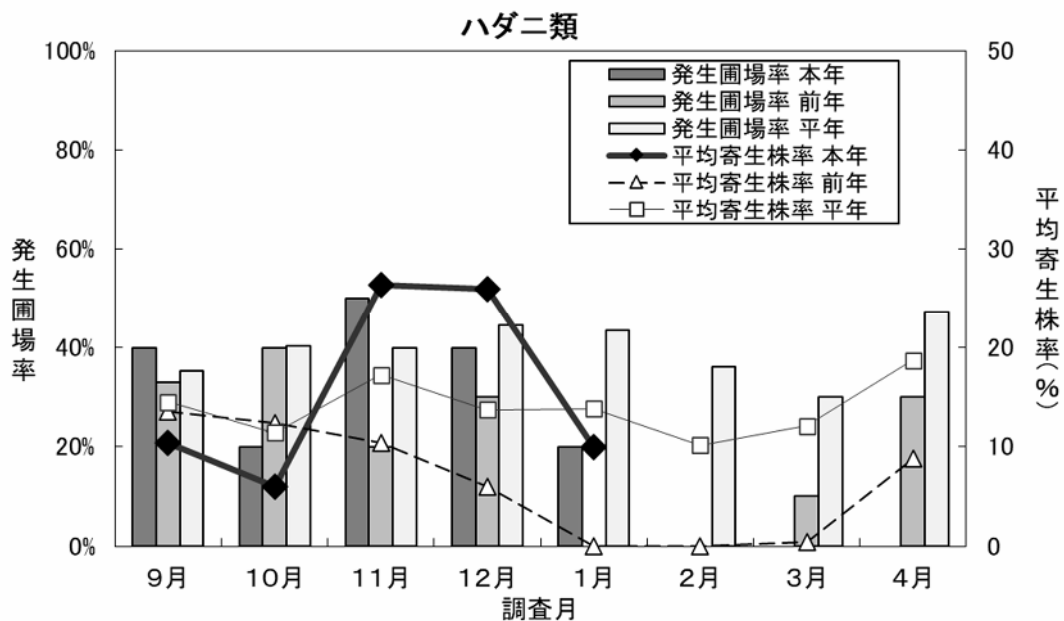
(3) 防除上注意すべき事項

ア 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、気門封鎖剤や天敵（カブリダニ類）を利用する。

イ 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難であるので、早期発見に努め、葉裏を中心に防除を行う。

ウ 古い下葉が残っていると葉裏に薬剤がかかりにくくなるため、薬剤散布前に下葉を取り除くようにする。

エ 2回目以降の天敵放飼は、ハダニ類が確認できない場合でも予防的に実施する。



※ 薬剤の詳細は大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針、又は各地区防除暦を参照する

気象台メモ

大分地方気象台

◎ 九州北部地方（山口県を含む）1か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・発表：令和7年1月23日（毎週木曜日に発表）
- ・予報期間：令和7年1月25日～令和7年2月24日

【予想される向こう1か月の天候】

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

3～4週目は、平年並の確率40%です。

【向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）】

要素	予報対象地域	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	九州北部地方（山口県を含む）	40	30	30
降水量	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40
日照時間	九州北部地方（山口県を含む）	30	30	40

◎ 九州北部地方（山口県を含む）3か月予報（福岡管区気象台発表）

- ・発表：令和7年1月21日
- ・予報期間：令和7年2月～令和7年4月

【予想される向こう3か月の天候】

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

2月 平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

3月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

4月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

【向こう3か月の気温、降水量の各階級】

- | | | |
|-----|-----------|-------------|
| 3か月 | 気温：平年並か高い | 降水量：平年並か少ない |
| 2月 | 気温：ほぼ平年並 | 降水量：平年並か少ない |
| 3月 | 気温：高い | 降水量：平年並か少ない |
| 4月 | 気温：平年並か高い | 降水量：ほぼ平年並 |

【向こう3か月の気温の各階級の確率（%）】

気温	予報対象地域	低い	平年並	高い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40
2月	九州北部地方（山口県を含む）	40	30	30
3月	九州北部地方（山口県を含む）	20	30	50
4月	九州北部地方（山口県を含む）	20	40	40

【向こう3か月の降水量の各階級の確率（%）】

降水量	予報対象地域	少ない	平年並	多い
3か月	九州北部地方（山口県を含む）	40	40	20
2月	九州北部地方（山口県を含む）	40	40	20
3月	九州北部地方（山口県を含む）	40	40	20
4月	九州北部地方（山口県を含む）	40	30	30

◎ 最近1か月の天候経過（令和6年12月下旬から令和7年1月中旬の天候）

12月下旬

天気は、気圧の谷、湿った空気や寒気の影響で曇りや雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、湯布院で平年より低く、他は平年並だった。降水量は、玖珠で平年並、他は平年より少ないか、かなり少なかった。日照時間は、玖珠で平年並、他は平年より多いか、かなり多かった。

中津、武蔵、大分、犬飼、宇目で「月降水量の少ない方から」の通年の1位の値を、椿ヶ鼻で「月降水量の少ない方から」の12月の1位の値を更新した。

23日は大分地方气象台で初霜と初氷を観測した。初霜は平年（12月8日）より15日遅く、昨年（12月4日）より19日遅く、初氷は平年（12月15日）より8日遅く、昨年（12月22日）より1日遅かった。

※大分市の旬平均気温は8.0℃で平年並だった。旬降水量は0.0ミリで平年よりかなり少なかった。旬日照時間は63.4時間で平年より多かった。

1月上旬

天気は、期間の後半は気圧の谷、湿った空気や寒気の影響で曇りや雨となり、雪やみぞれの日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年より低かった。降水量は、湯布院で平年より少なく、他は平年並か、多かった。日照時間は、平年並か、平年より多かった。

9日は院内で「日最大風速・風向」の1月の1位の値を更新した。

7日は大分地方气象台で初雪を観測した。平年（12月10日）より28日遅く、昨年（12月17日）より21日遅かった。

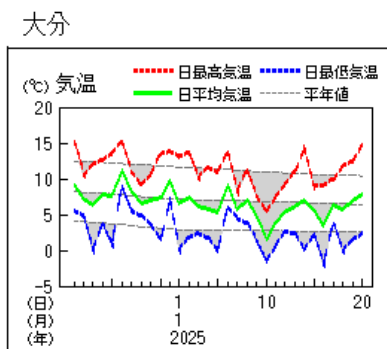
※大分市の旬平均気温は5.9℃で平年より低かった。旬降水量は13.5ミリで平年より多かった。旬日照時間は53.4時間で平年並だった。

1月中旬

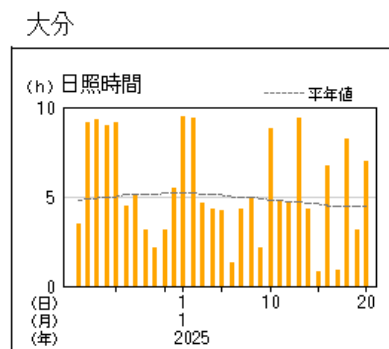
天気は、気圧の谷、湿った空気や寒気の影響で曇りや雨となり、雪の日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日が多かった。気温は、平年並か、平年より低かった。降水量は、椿ヶ鼻で平年よりかなり少なく、他は平年並か、少なかった。日照時間は、平年並か、平年より多かった。

※大分市の旬平均気温は5.8℃で平年より低かった。旬降水量は1.5ミリで平年より少なかった。旬日照時間は49.9時間で平年並だった。

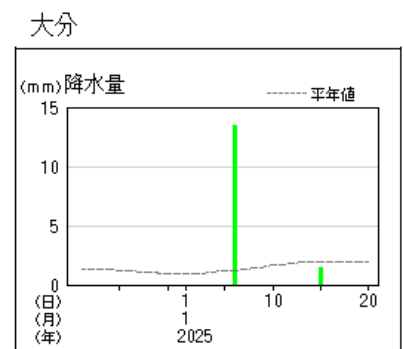
地上気象 気象経過図：2024年12月21日-2025年01月20日



地上気象 気象経過図：2024年12月21日-2025年01月20日



地上気象 気象経過図：2024年12月21日-2025年01月20日



地上気象 気象経過図：2024年12月21日～2025年1月20日

適正防除はホームページで!!

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

または



病虫害対策チーム

検索

農業研究部

病虫害対策チーム

葉根菜類・茶業チーム

果樹グループ

花きグループ

地域農業振興課

安全農業班

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部 病虫害対策チーム

〒879-7111 大分県豊後大野市三重町赤嶺 2328-8

Tel. 0974-28-2078

Fax. 0974-22-0940

大分県農林水産部地域農業振興課 安全農業班

〒870-8501 大分県大分市大手町 3-1-1

Tel. 097-506-3661

農薬は正しく安全に使いましょう!